

挨拶と人間関係

■ 今回のポイント

- ① 挨拶のはたらき
- ② 挨拶と人間関係
- ③ 挨拶言葉の使い分け

① 挨拶のはたらき

私たちは毎日さまざまな人といろいろな挨拶を交わしています。挨拶には大きく二つのはたらきがあると考えられます。一つは、人とのよりよい人間関係の構築に役立つということです。朝、昼、放課後などの場面やどのような人に対して挨拶するのかによって、さまざまな挨拶がありますが、その場面や相手にふさわしい挨拶をすることで、よい人間関係を構築することができます。番組では、朝の場面に限定して演習を行います。昼や放課後、何かをしてもらったとき、などさまざまな場面や相手を想定して、その場にふさわしい挨拶を考えてみましょう。

もう一つは、コミュニケーションのきっかけづくりになるということです。番組では、もし挨拶がなかったら、という設定で挨拶のない世界を演じてもらいます。挨拶がないと、その場がまるで他人同士の集まった試験会場のような、冷たい雰囲気になってしまいます。まずは、挨拶を交わすことで、その場の雰囲気も明るくなり、次の会話へとつながっていくのです。

② 挨拶と人間関係

挨拶することは人間関係にどのように役立つのでしょうか。また、人間関係づくりに役立つ挨拶とは、どのようなものなのでしょうか。番組で紹介する、商店街の挨拶の達人たちに教わりながら、実践を通して学びます。

商店街の挨拶は、相手がどんなお客さん（患者さん）なのかによって使い分けられており、その場にふさわしい、さまざまな挨拶言葉が使われています。挨拶が交わされることで相手と親しくなり、その場に活気がでるということもわかります。商店街での挨拶はお客さんに対するものですが、これを自分が挨拶する相手と考えると、ここで学ぶことは、私たちの生活にも置き換えられます。相手にふさわしい言葉で自分から積極的に挨拶を交わすことで、その場の雰囲気も明るくなり、相手とより親しくなれ、人と人がつながっていくのではないのでしょうか。

③ 挨拶言葉の使い分け

挨拶は相手との関係によって交わされる言葉であるということは、相手によって使われる言葉の選び方も違ってくるということです。番組ではクイズ形式で確認します。同じ意味の言葉でも、「ごさいます」や「です」「でした」をつけて丁寧にする場合とつけずに言う場合を適切に使い分け、相手にふさわしい言葉を選ぶようにしましょう。特に、初対面の人や目上の人には丁寧な言い回しで言うように心がけましょう。

■ 今回のまとめ

挨拶をするうえで一番大切なのは、「言葉を交わす」ということです。挨拶言葉は、本来の意味や成り立ちが長い間に変化して、儀礼的で、形式的な言葉となっています。例えば、「おはよう」は、「お早くおでかけですね。」といった「お早く」が「おはよう」にウ音便化して変化したものですし、「おめでとう」も「おめでたくご結婚ですね。」の「おめでたく」が「おめでとう」に変化したもので、現在私たちは、言葉そのものの意味を考えずに使うことができます。

だからこそ、その場にふさわしい言葉を使い分けることで、円滑な人間関係やコミュニケーションのきっかけづくりができるのです。「挨拶ができること」「は」社会で生きていく力」になるともいえるでしょう。